

**安全安心まちづくり
検討分科会
検討事項の概要**



はじめに

近年、全国的に犯罪の広域化、悪質化が一層加速し、子どもや高齢者など、より弱い立場の人が被害者となる傾向があります。

当市においては、各地域での自主防犯ボランティア団体の結成や青色回転灯装着車両によるパトロール隊の発足など防犯意識の高まりにより、犯罪発生件数（刑法犯認知件数）は年々減少しつつありますが、平成 21 年には 532 件と憂慮すべき事態が続いています。

海津市総合開発計画策定時に実施した市民アンケート調査において、犯罪・風紀などの防犯対策は最優先課題として位置付けられており、積極的な対応が必要とされています。

安全安心の確保は、警察など行政の取組だけによって果たされるものではなく、市民一人ひとりの主体的な意識・行動はもとより、「地域の安全は地域で守る」といった地域住民が互いに力を合わせるることによる地域の自主的な取組がなければ実現し難いものになってきています。

しかしながら、近年の少子高齢化、核家族化といった社会情勢の変化等により、地域住民同士のつながりや力を合わせて何かに取り組もうといった連帯意識の希薄化が進み、現代社会において「地域住民同士の結びつきをいかに強め、活性化していくか」ということが大きな課題になっています。

海津市まちづくり委員会では、市民が安全で安心して暮らすことができるよう、「防犯」をテーマに分科会を設置し、市民と行政が一緒になって“安全安心なまちづくり”について地域における問題や課題に対し検討する必要があると考えます。



市内の状況

海津市内の犯罪発生件数状況

平成 21 年の岐阜県における刑法犯認知件数を罪種別に整理すると、全体の 7 割が窃盗犯となっております。窃盗犯のうち、侵入盗については、空き巣、出店荒らしといった手口によるものが多く、非侵入盗については、車上・部品ねらいや万引き、置引きとった手口による被害が多くなっています。また、乗り物盗については、約 8 割が自転車盗となっております。

海津市においては、刑法犯認知件数は 532 件と全体の 8 割が窃盗犯となっており、減少傾向にはありますが、平成 21 年に入って増加に転じています。

【市内における犯罪の認知件数(罪種別)】

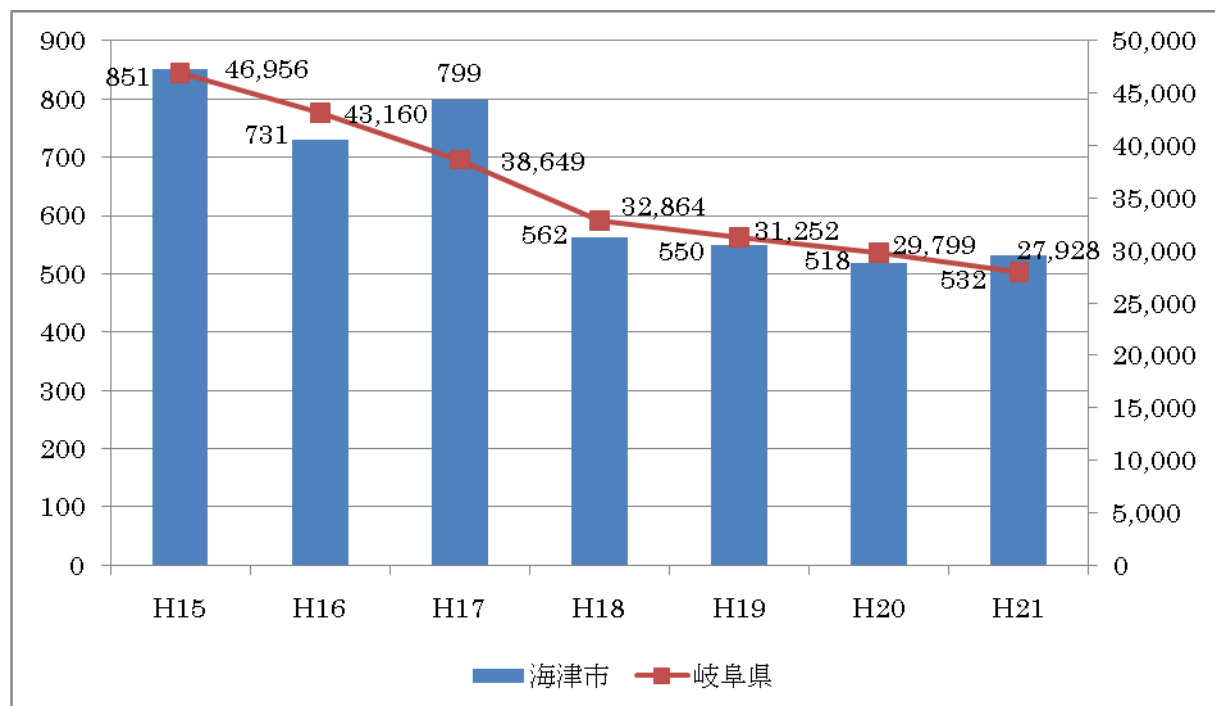
資料：岐阜県HPより抜粋

	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21
犯罪件数合計(件)	851	731	799	562	550	518	532
凶悪犯	2	0	1	5	0	1	6
粗暴犯	19	16	6	5	11	5	5
窃盗犯	677	607	625	400	401	386	443
知能犯	10	21	12	25	25	13	6
風俗犯	22	6	7	0	3	4	3
その他の刑法犯	121	81	148	127	110	109	69

参考

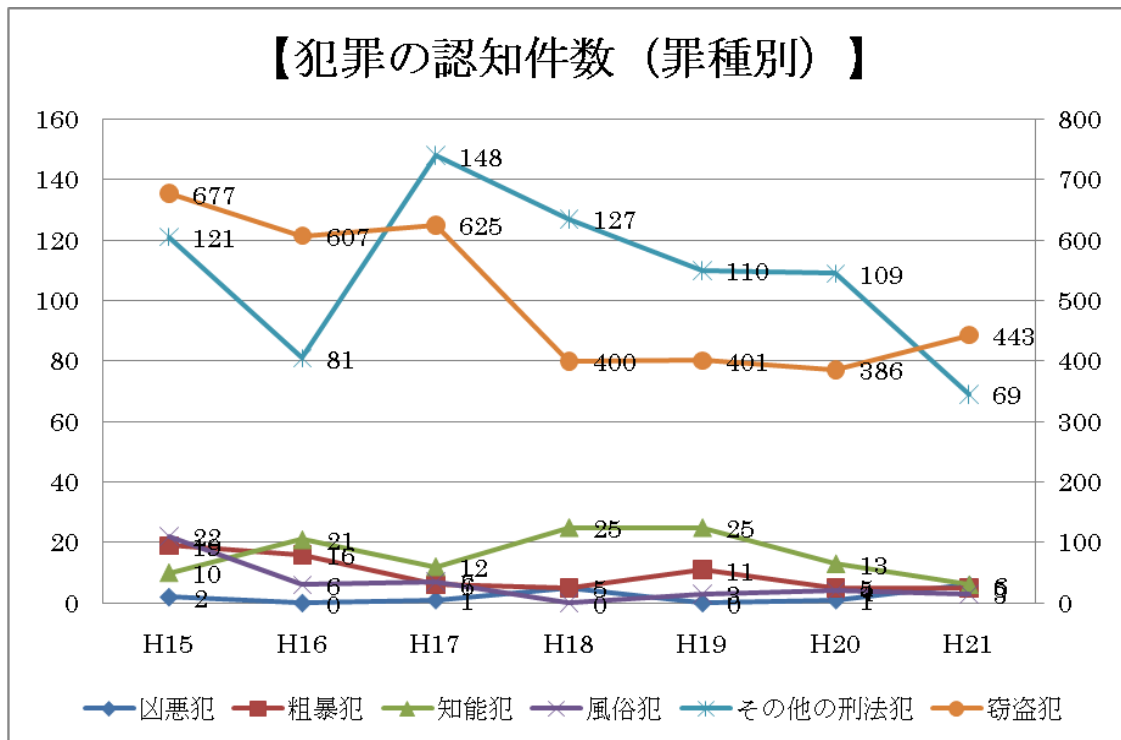
【岐阜県と海津市の犯罪の認知件数】

資料：岐阜県HPより抜粋



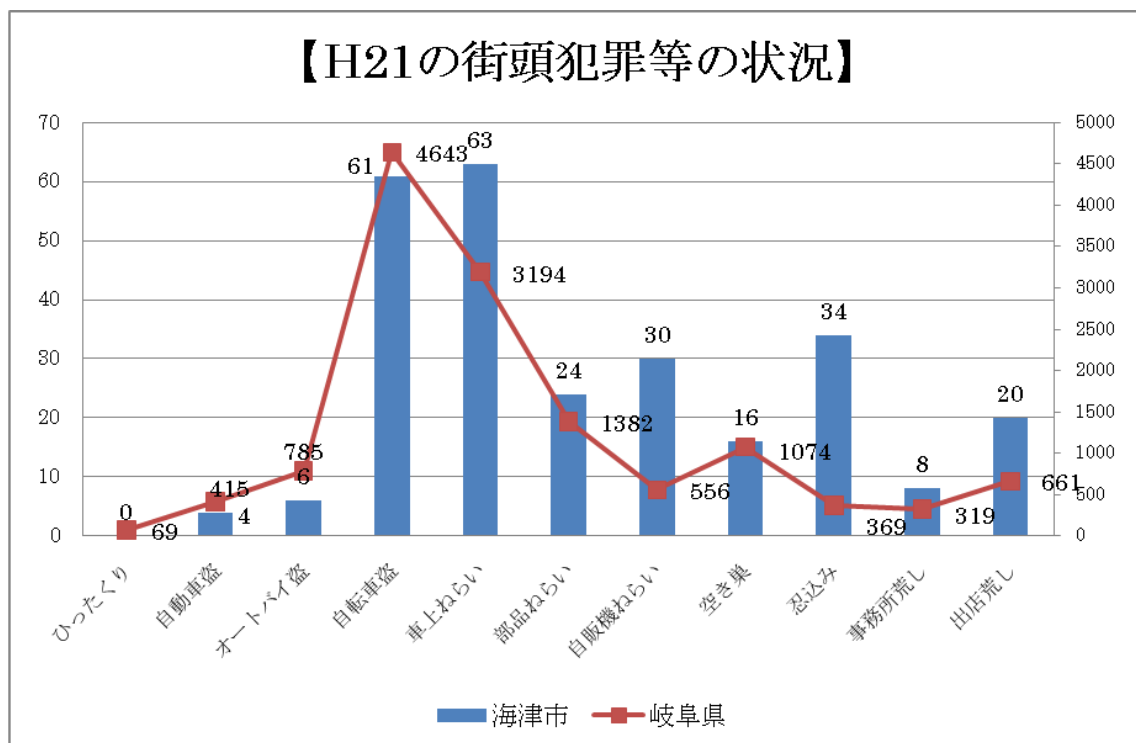
市内における犯罪の認知件数(罪種別)

資料: 岐阜県HPより抜粋



市内における街頭犯罪等の状況

資料: 岐阜県HPより抜粋



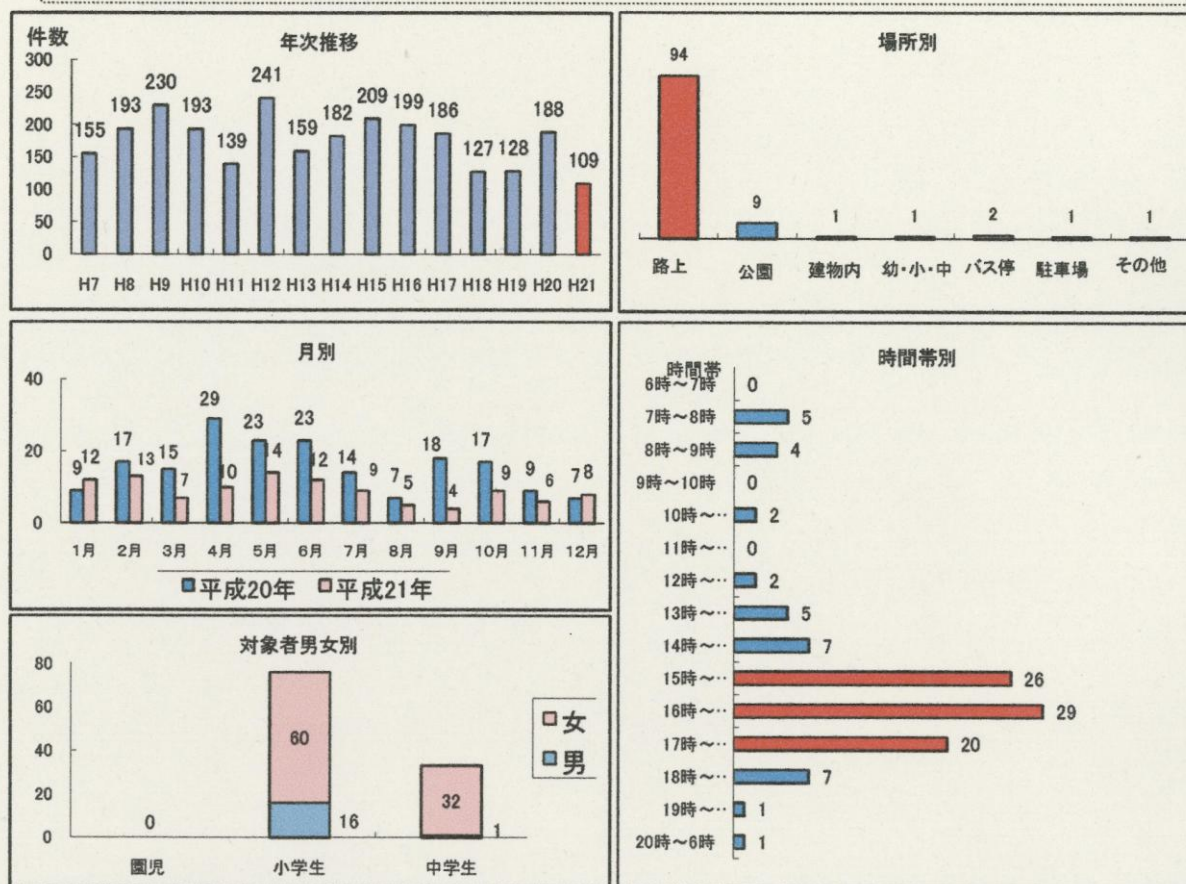
岐阜県における声かけ事案等の発生状況

声かけ事案等の発生状況（グラフ）

平成21年中

声かけ事案等とは、中学生以下の子どもに対して、誘拐、強制わいせつ等の犯罪被害には至りませんが、その前兆としてとらえられる声かけ事案、その他子どもに不安を覚えさせるような言動があったものをいいます。

（表は、警察が認知した事案を基に作成しています。）



特徴

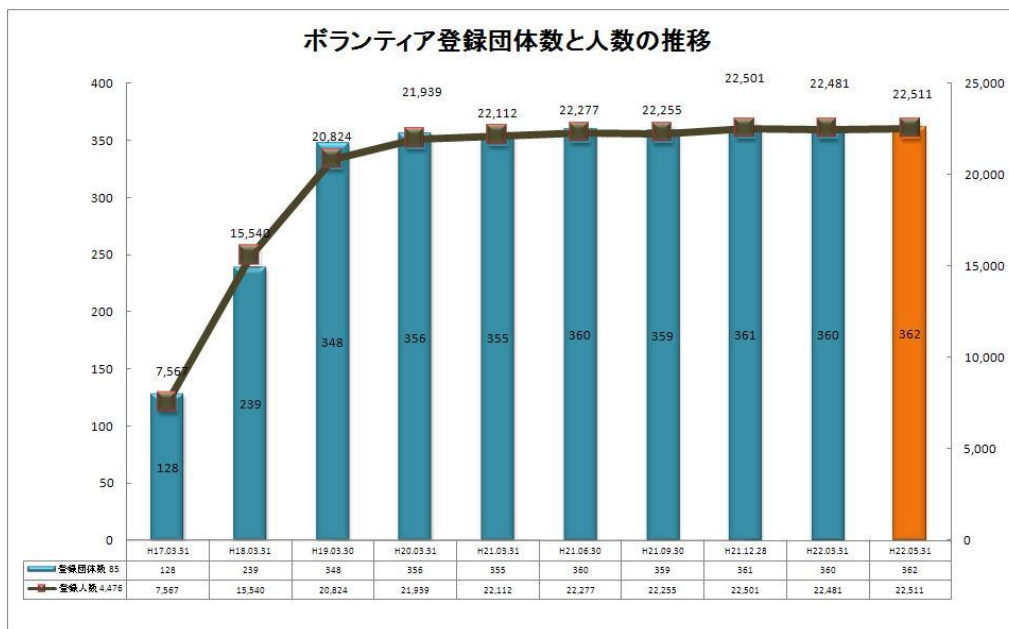
- ・声かけ事案等の発生件数は109件
- ・女子小・中学生に対するものが約84%（92件）
- ・路上での発生が約86%（94件）
- ・登下校時間帯の発生が約50.5%（55件）
- ・特に、15時から18時の発生が多く、約69%（75件）



安全・安心ボランティア登録団体数と人数の推移(岐阜県)

「安全・安心ボランティア」とは、地域住民が主体となって地域安全活動を熱心に行っている団体・グループが県登録をし、県内各地で活動をしている団体です。

西濃管内では、107団体・2,937人。海津市では、5団体102人が登録されています。

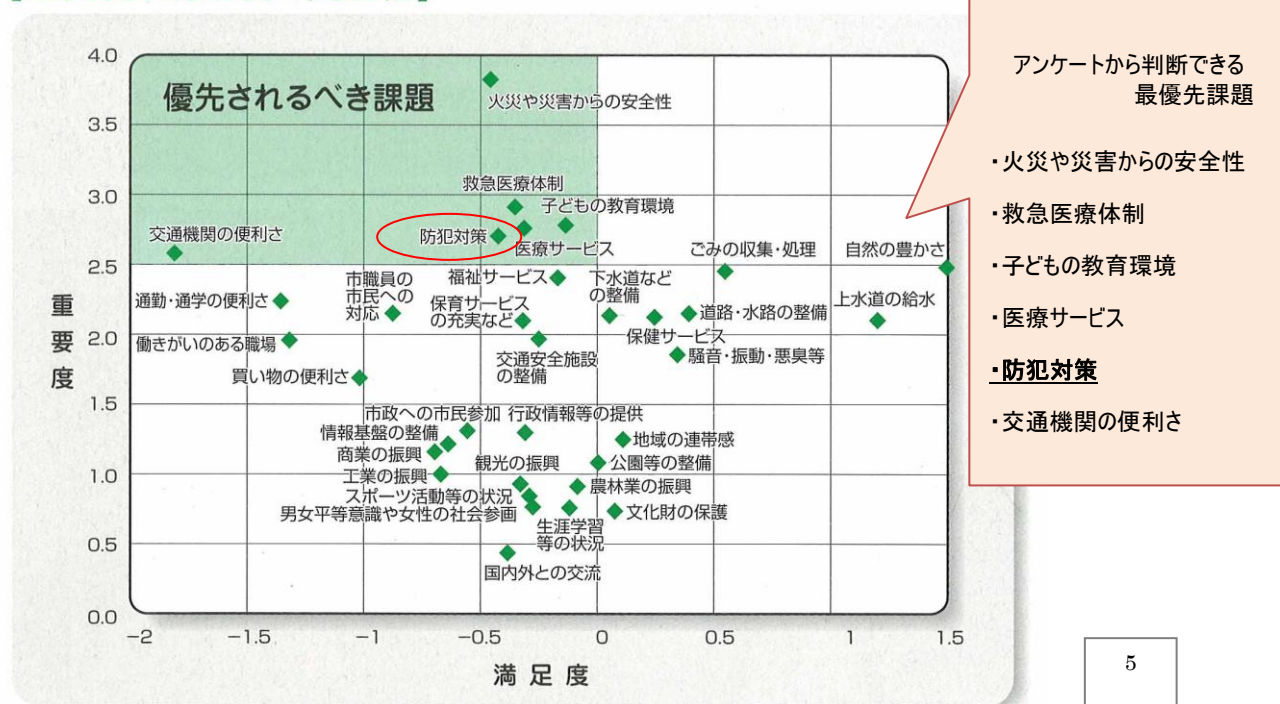


安全安心は市の最優先課題です

海津市の総合開発計画を策定するにあたり、市民の意見や要望等を踏まえ進めていくための基礎資料を得ることを目的としアンケート調査を実施しました。

アンケートから市民が「重要度は高いが満足度は低い」と考える点について重視し、それを優先されるべき課題としました。(下図参照)

【重要度と満足度の関連性】



検討事項

安全で安心なまちづくりを実現する取り組み テーマ:防 犯

市民が、犯罪のない安全で安心な地域社会を実現していくためには、市の取り組みや警察活動だけでなく、市民一人ひとりが「自分の地域の安全は自分たちで守る」といった意識を高め行動するとともに、地域の様々な活動に参加・協力して地域社会の連帯を深め、暮らしやすい生活環境づくりを進めていくことが必要です。

しかし、地域が抱える課題にはさまざまなものがあります。また、そのような課題に対する住民の考え方・価値観もさまざまです。

大切なのは、ひとつの価値観のみによるのではなく、地域ぐるみで議論を重ね、多様な価値観が共存できる方向を探ることだと考えます。

また、高齢者を狙った振り込み詐欺に代表されるように、近年、高齢者に対する防犯対策の重要性がますます高まっています。

こうした犯罪被害に遭わないためにも福祉の分野との連携は欠かせません。

このように、地域における様々な分野と連携しながら、市民、事業者、自主防犯ボランティア等、地域ぐるみで出来ることは何か、海津市に求められるものは何かを検討していきます。

検討結果は市長に提案します

分科会において調査・検討した事項は、最終的に報告書としてまとめます。

報告書は、まちづくり委員会の幹事会において審議された後、市長に対し、まちづくりの「提案書」として市長に提出されます。

スケジュール

平成 23 年度 報告書を提出します

第 1 回分科会開催 平成 22 年 9 月 6 日



分科会開催（開催日程等は、2 ヶ月に 1 回程度開催予定。）

- ・現状分析
- ・課題と研究（ワークショップ）
- ・先進地視察など
- ・報告書作成



平成 23 年 10 月を目途に報告書を完成
まちづくり委員会幹事会へ提出



平成 23 年 10 月頃、提案書を市長に提出



委員名簿（敬称略）

1. 公募委員	大 倉 金 次
2. 公募委員	白 井 春 幸
3. N P O 法人 海津おやじの会	樋 口 幸 二
4. N P O 法人 セーフティサポートコミュニティ平田	丹 羽 公 成
5. 南濃北部地区防犯パトロール隊長	藤 田 良 博
6. 海津地区交通安全協会 会長	堀 田 行 雄
7. 海津地区防犯協会 副会長	牧 野 光 子
8. 市自治連合会代表	宮 脇 信 幸
9. 市社会福祉協議会	水 谷 英 基
10. 海津市更生保護女性会代表	中 島 雅 子
11. 高須生活学校代表	加藤 佳余子
12. 総務課	伊 藤 裕 紀
13. 学校教育課	吉 田 太
14. 福祉総務課	高 橋 豊
15. 海津市消防本部	加 賀 誠
16. アドバイザー 海津警察署 生活安全課長	木 澤 博 孝
17. アドバイザー 岐阜経済大学教授	鈴 木 誠